

■平成 27 年度 第 2 回佐渡市地域公共交通活性化協議会 議事概要

日時：平成 28 年 2 月 2 日（火） 10：00～

会場：あいぽーと佐渡 1 階ホール

議 事 次 第

1. 開 会

2. 議 事

(1) 報 告

①地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

②佐渡市自家用有償旅客運送運営協議会について

③平成 27 年度事業中間報告について

(2) 協 議

①平成 27 年度補正予算（案）について

②平成 28 年度事業計画（案）について

③平成 28 年度予算(案)について

3. そ の 他

4. 閉 会

・・・会議の出席状況・・・

所属	職	氏名	欠席・代理等
佐渡市	副市長	金子 優	欠席
〃	総合政策監	池町 円	欠席
新潟交通佐渡株式会社	代表取締役社長	大嶋 徳之	
佐渡地区ハイヤー協会	副会長	後藤 正一郎	
佐渡汽船株式会社	取締役営業部長	山中 一秀	代理出席 野田部長
新潟交通佐渡労働組合	執行委員長	本間 真佐栄	
国土交通省北陸信越運輸局企画観光部	交通企画課長	田村 圭	代理 塩原係長
国土交通省北陸信越運輸局新潟運輸支局	首席運輸企画専門官	白砂 千佳	
新潟県佐渡地域振興局	地域整備部長	吉田 茂	代理出席 長谷川 副部長
佐渡西警察署	署長	近藤 正彦	代理出席 金子 交通課長
佐渡東警察署	署長	阿部 実	代理出席 吉川交通課長
佐渡市民生児童委員協議会	民生児童委員	渡部 謹一郎	
佐渡市社会福祉協議会	常務理事	浅井 賀康	
佐渡市老人クラブ連合会	会長	計良 益夫	
佐渡市女性団体連絡協議会	会長	伊藤 昭子	
佐渡観光協会	観光戦略本部長	加藤 透	
長岡技術科学大学大学院	教授	佐野 可寸志	

事務局	交通政策課 課長	渡邊 裕次	
事務局	交通政策課 補佐	高津 孔	
事務局	交通政策課 主任	斎藤 竜一	
事務局	交通政策課 主任	長尾 啓介	
オブザーバー	観光振興課 補佐	岩崎 成正	
オブザーバー	社会福祉課 課長	鍵谷 繁樹	
オブザーバー	高齢福祉課 補佐	野田 正史	
オブザーバー	学校教育課 主任	中川 優子	

2. 議 事

(1) 報告

①地域公共交通確保維持改善事業の事業評価について

○資料 No. 1 について事務局から説明

【質疑応答】

- ・ 特になし

②佐渡市自家用有償旅客運送運営協議会について

○資料 No. 2 について事務局から説明

【質疑応答】

- ・ 特になし

③平成 27 年度事業中間報告について

○資料 No. 3 について事務局から説明

【質疑応答】

- ・ 高齢者割引サービスの利用証について写真の無い旧利用証が使用されていることがある。その都度切り替えをお願いしているが、再度、周知をお願いする。(委員)
⇒ 現在、全体の 1/3 に当たる 2,000 名弱が切り替えを終えていない。現在も周知を行っている。(事務局)
- ・ P12 上段の利用者数グラフでは、往路と復路で利用者が大きく違うのはなぜか。(委員)
⇒ P11 に※で示しているが、7:10 江積発便は早朝便で、かつ、小木線への直通便で、宿根木線から小木線への乗り換えの路線であるから省いている。実際には 3,488 人が足されることになる。(事務局)
- ・ P19 の観光二次交通での利用者数の昨年度との比較においては、観光客の増減が影響を受けていると感じる。観光の入り込み客数を併記してあると、バスの利用が増えている等の傾向がわかりやすい。(委員)
⇒ 事務局としては各施設の入り込み実数、佐渡汽船の入り込みの状況等を踏まえて検証を進めている。今回は掲載しなかったが今後そういったものも掲載します。(事務局)
- ・ P23 の低床バス導入の取り組みは、老人クラブの皆さんには非常に好評であり、

高齢者にとってありがたい。(委員)

⇒ 今後も進展する高齢化に対応して進めていきたい。(事務局)

(2) 協議

①平成 27 年度補正予算(案)について

○資料 No. 4 について事務局から説明

【質疑応答】

・ 車両のラッピングでは、3名のデザインを採用したようだが、1台の車両に3名のデザインを採用したのか。3台に3名のデザインを採用したのか。また、内装ラッピングについてはなぜ実施しなかったのか。(委員)

⇒ ラッピングについては、第1回の協議会の中で、ラッピングよりも低床車両の導入も優先していくべきだという意見が出ていた。バスのデザインは、1台に3名のデザインをシェアし、当初ラッピングは2台の計画であったが、バスの左右の面、そして背面を使って1台に集約してデザインし事業を圧縮した。(事務局)

・ 平成27年度補正予算案については承認された。(委員)

②平成 27 年度事業計画(案)について

○資料 No. 5 について事務局から説明

【質疑応答】

・ 再編実施メニューの案1、案2とあるが、結局、案2でいくということか。(委員)

⇒ 路線再編計画を提示したうえで、意見をお聞きしたいと考えている。(事務局)

・ 案1では、本線と南線を再編して環状線を軸にした高頻度運行とあるが、高頻度とはどれくらいを想定しているか。(委員)

⇒ 事務局の方では30分に1本で時計回り、反時計回りを想定している。(事務局)

・ 乗換えが発生するデメリットを危惧している。利便性、運賃など乗換えのデメリットを上回るメリットをしっかりと作らないといけない。(委員)

・ 相川循環のパーク&ライドは具体的にどうなるのか。(委員)

⇒ 観光客がまず殺到する場所は佐渡金山になると思われるので、佐渡金山の駐車

場を想定している。また、バス乗継拠点となる相川支所隣が市営駐車場であるため、そちらを紹介することになる。パーク&ライドをすることのメリットである、バスに乗り換えてもらって自由に散策することを重点的にPRしていく。(事務局)

- ・ 世界遺産の交通部会との連絡もしっかりしてもらいたい。(委員)

- ・ 最後の免許返納の金額は、1万円と言わず、2万円程度まで上げてはどうか。(委員)
- ⇒ 当初2万円を想定していたが、継続性を担保するという理由から1万円となった。県内他市の状況も参考にしたが、2万円は2市だけであり、大半は1万円という状況であった。(事務局)

- ・ 免許返納の今年目標が125名とある。70歳以上が対象であるが、実際に免許を返納している人の平均は何歳くらいの人なのか。(委員)
- ⇒ 佐渡市管轄の免許返納の年齢の把握はしていないが、県内では70歳以上の高齢者が大半を占めている。(事務局)

- ・ 免許を返納している人が80、90歳であるならバスに乗っているかどうかは疑問である。70歳の方が返納していれば、バスにも乗るだろうが、80、90歳の人達が果たしてバスに乗るのか。(委員)
- ⇒ 警察所の窓口、運転免許センターの窓口から自ら出向いて、自分で書類を書いて自主返納できる方が返納しているので、80歳、90歳で動けない人は返納しない。有効期限を切らしてそのまま乗らなくなるのが現状である。窓口に来るのは健康な方、自分で返納する意思を示して手続きをする方となる。(委員)
- ・ 平成26年で43人、平成27年11月末までで72人と、返納する人が増加している。高齢者運賃割引サービス事業の良い影響がでているのではないかと返納者年齢を調べることでそういった効果がわかるのではないかと。(委員)

- ・ 再編実施メニューで、先ほど30分に1本程度という話であったが、時計回りと反時計回りがそれぞれ30分に1本なのか。一周する運行時間はどのくらいを想定しているのか。案2の方で南線が総合病院に寄ることになるが、両津から佐和田までの運行時間、それから本数、頻度は今までの南線と比べてどうなるのか。(委員)
- ⇒ 案1では一周は70分~75分で考えている。時計回りと反時計回り両方で30分に1本程度を考えている。案2では南線の両津~佐和田間の運行時間は現行よ

り15分程度遅くなる。便数については現状を維持することで検討している。病院の利用がある時間は迂回させるが、南線は通学利用も多いため、通学に支障の無い時間帯での迂回を想定している。(事務局)

⇒ 再編計画の案1や案2、観光循環バスをなぜ計画しているかということについて説明する。島内では、新潟交通が運行している本線、そして廃止路線代替バスが運行している。市は多額の補助金を出して維持している。しかし、今のままでは乗客が増えるか、国、県の補助金が増加しないと市の負担が上がっていくだけである。

南線は幹線の位置づけとなっているが、予算が不足すれば極端に言えば便数を半分にすることもあり得る。拠点となる港が3つ、そして観光地、市役所、総合病院等、バスはそのような施設を結ぶこととなるが、すべて放射線状に路線が展開されていて、途中は乗っていないのが現状であり、効率化を検討することが必要である。

本線では佐和田で乗り越す方が4人に1人いる。他市の事例を見れば、乗り継ぎによって利便性が損なわれると公共交通だけでなく、色々な問題に繋がるため慎重に検討する必要がある。

アンケートやヒアリングで市民の声を聞いているところである。路線見直しの中で、大幅な減便など、利便性を損なわないようにするために、可能であれば再編実施計画を作って、国、県の補助を受けて、持続できるようなものにしたい。

既存の本線、南線という形にとらわれず再編を検討する必要がある。(事務局)

- ・ 除雪に関して、凍結防止剤散布車の乗り入れをお願いしていたが進んでいない。低床車両を増やすのは良いが、除雪をしっかりとやらないと雪を巻き込んでギアが入らなくなる。

また、両津埠頭の2車線のうち、1車線が違法駐車で埋まっている。観光客を乗せて走るバスから最初に見えるのがあの違法駐車である。世界遺産に向けて何とか対策してほしい。(委員)

⇒ ターミナル前の駐車違反については、指摘を受けており、将来的に向けた話し合いをしているところである。対策としてパトカーで広報しているが、車から離れている運転手が多い。ターミナルの中で待ち合わせて車に戻ってくるケースが多い。運転手がいる場合は移動してもらっているが、停まっている車を動かすのは難しい。

駐車場の確保も含め、関係機関と連携して世界遺産に向けてやっていきたい。(委員)

- ・ 佐渡一周線については、以前から真更川の始発に合わせて凍結防止剤をまいている。凍結防止剤をまいてほしいという要望には今年度から対応している。県道では、通常10cmで除雪を行うことになっている。(員)

- ・ 平成28年度事業計画案については、承認頂けますか。(委員)

⇒ 異議なし。

③平成28年度予算(案)について

○資料 No. 6 について事務局から説明

【質疑応答】

- ・ 平成28年度予算案については、承認頂けますか。(委員)

⇒ 異議なし。

3. その他

- ・ 佐渡総合病院前の横断の危険性、金井小学校の標識について相談したところ、早速整備をしていただいた。地域公共交通の活性化ではないかもしれないが、真剣に対応してもらい、事務局等関係者皆様に感謝したい。老人クラブを代表して、お礼申しあげる。(委員)

- ・ 本日は、平成28年度の事業計画案、予算案について承認いただいた。現在取り組んでいる高齢者運賃割引サービス事業については平成28年度も継続していく。

また、高齢者ドライバーが加害者・被害者になることが多いということで、運転免許証返納支援事業を市の事業として進める。

観光二次交通としては、相川観光循環バスを今年度はGWと7、8月の土日祝で運行していたが、公共交通活性化協議会と連携をして、地元の利用をPRして8月は毎日運行し、市民の実態を調査し、今後につなげていきたい。

新潟交通佐渡で取り組んでいる外国人対応ということで、路線バス車内で英語アナウンスをしている。本線、南線、小木線、相川観光循環バスにおいて既に実施しているが、金山につながる七浦海岸線についても平成28年度対応していきたいと考えている。誘導サインやWi-Fi環境整備については佐和田BS等でも対応を進めていきたい。

保育園児のバス教室については今年度も非常に好評だったので、平成28年度は

2園から4園に拡充したい。

継続するもの、新規拡充するもの、公共交通を取り巻く状況は変化しているが、皆様の知恵をいただいて、さらなる活性につなげていきたいと考えているので、引き続きよろしく願います。本日提案の予算等については3月の市議会で予算が議決されることが前提となるので承知いただきたい。(事務局)

4. 閉 会

- ・ 本日は活発な議論感謝する。佐渡の地域交通の特徴として、市民の足を守ることに加えて、観光の二次交通が重要だと認識している。生活交通だけでなく、観光二次交通を合わせることで利用者を増やし、採算性を確保することに繋がるので、世界遺産登録がされ、地域公共交通が活性化することを祈念している。(副会長)

以 上